

明治国家のグランドデザイナー井上毅

～福澤諭吉の時代から井上毅の時代へ～

大久保啓次郎

1. 出身地&生年月日と修学時代の状況

肥後国（熊本県）で 1844 年～1895 年（明治 28 年没：満 51）。幼少時代は藩校「時習館」で朱子学を基本とする儒学を学び儒教思想を習得。その後の人生は儒教思想を貫く。慶應 3 年に藩命によりフランス語習得のために江戸に派遣される。明治 4 年に明治政府の司法省に仕官。

2. 岩倉使節団との関係

岩倉使節団は明治 4 年に米欧亜の順番に回覧するが、井上は司法卿江藤新平の命を受け、明治 5 年に司法省の上司や同僚ら 7 人とパリやベルリンへ行き、そこで岩倉使節団と合流し、司法制度の調査にあたる。明治 6 年に帰国するがその間の 2 年間は主としてボアソナードらフランスの法学者の講義を受けた。

尚、井上毅が彼の生涯に於いて仕えた主な上司は、順番から行くと、大久保利通、岩倉具視、伊藤博文、（以上岩倉使節団のメンバー）山県有朋の 4 人であり、いずれも明治国家形成において偉大な足跡を残した人物達である。（井上の遺言状に 4 人の名が明記）

3. 明治国家の「グランドデザイナー」としての主な事績

最大の事績は「大日本帝国憲法（明治憲法）」と「教育勅語」の原案の策定である。しかしそれ以外にも、不平等条約の改正への対応、台湾出兵後の清国との外交交渉、国会開設の勅諭や軍人勅諭、皇室典範策定に当たっての提言、日清戦争開戦勅諭、等々明治国家形成のあらゆる問題に関与して多大な影響を与えている。

明治 28 年に結核で亡くなる前、明治 26 年 3 月から明治 27 年 8 月までの約 1 年半は、文部大臣を務めるが、その間更に一層の努力を傾倒して諸般の改革に熱中し、下に聴き上に諮りて広く民意を取り上げて教育更新の案を立て、精力的にその具体化に精進した。文部大臣として顕著な業績を残した者は、前には森有礼のみ、後には井上毅のみと言われている。井上毅は品性高潔で、範を後進に垂れた比類なき典型的な文部大臣であったともいわれている。

4. 『明治 14 年の政変』における（陰の主役としての）井上毅の役割と事績

上記の事績の大半は『明治 14 年の政変』以降の事であり、かかる観点からこの政変で陰の主役として井上毅が果たした役割は甚大であったと言わざるを得ない。

逆説的に言うならば、『明治 14 年の政変』という事件を抜きにしては、（少なくとも）彼の最大の事績である「大日本帝国憲法」と「教育勅語」は考えられない。

5. 『明治年の政変』事件の概要

『明治 14 年の政変』とは、自由民権運動の高まりの中で、政府内での国会開設&憲法制定に関する議論と、北海道開拓使官有物件払い下げ反対運動、の二つが時期的に絡み

合った結果、一旦決定した払下げは中止となり、国会開設（明治 23 年）と憲法制定（プロシア型憲法）の方針が決まり、大隈重信参議と彼の部下（主として福澤門下生）が政府から追放された事件である。

と同時に、「国会開設と憲法制定」が議論される過程を利用して、井上毅が福澤諭吉の文明開化思想を当面は完全に葬り去る事に成功した事件でもある。

表面的には（表舞台では）国家開設時期は漸進的（ゆっくり）でプロシア型憲法案を提案した伊藤博文（岩倉具視）と国家開設時期は急進的で（明治 16 年）で英国型憲法を提案した大隈重信の権力争いであったが、裏舞台では、陰の主演として活躍した井上毅（伊藤博文側）と福澤諭吉（大隈重信側）の戦いがあった。

井上毅は表舞台では、岩倉具視や伊藤博文に働きかけ、二人に報告書を提出し、その中で、英国型憲法を否定し、プロシア型憲法を推し進めた。理由としては、大隈の英国型憲法は、福澤が明治 12 年 9 月に出版した『民情一新』の考え方と一緒に、英国型立憲政体論は、国王（天皇）の権限を無視した構想である。要するに「国王（天皇）は君臨すれども統治せず」の考え方である。

井上の説明で岩倉と伊藤は納得したが、大隈を追放する為に「官有物払下げ事件の反対運動の中心人物は大隈重信と彼の部下だ」と薩摩出身の政府の大物に言いふらした。

これで 1 件落着いたが、どうしても福澤の教育面での思想を一掃する為に、憲法問題が一段落した後の明治 14 年 11 月に、井上は、三条太政大臣、岩倉右大臣、有栖川宮左大臣の 3 大臣宛てに、「人心教導意見案」を提出し認可される。これは、明治 23 年に山県有朋内閣の時に、山県に命じられ、元田永孚と二人で起草した儒教主義に基づく『教育勅語』の原点となるのである。

このように、『明治 14 年の政変』は国会開設時期と憲法制定問題を巡る伊藤博文と大隈重信の争いであるが、陰の主演は井上毅と福澤諭吉であり、実質的にはこの二人の争いであった。このようにして『明治 14 年の政変』以降、福澤諭吉の文明開化思想は、井上毅の儒教思想に、第二次世界大戦終了時点まで葬り去られたのである。

6. 『明治 14 年の政変』事件の知られざる真相

この事件の真相は昭和 27 年（71 年間）まで明らかにならなかった。明治、大正、昭和と続く歴史の中で『明治 14 年の政変』という項目はどの書物にも出て来るが、そこで登場する人物の中に、福澤諭吉の名前は勿論のこと、井上毅の名前も出て来ない。

福澤諭吉の門下生（石河幹明や富田正文）が書いた『福澤諭吉傳』の中に『明治 14 年の政変』という項目はあるが、福澤と井上は全く無関係で登場してこない。

では「井上毅の黒幕説」を最初に明らかにしたのは誰で、どの時点であったのか？

著者は大久保利謙（大久保利通の孫）で、井上匡四郎（毅の娘婿）所蔵の「井上毅文書」から新資料の提供を受け、昭和 27 年（1952 年）に出版された下記の著書である。

『明治 14 年の政変と井上毅』乾元社（開国百年記念文化事業の一環として）

井上毅は『明治 14 年の政変』の中での自分の関与は知られたくなかったようである。

昨年は没後 120 年に当たり、井上毅の膨大な資料が保管されている國學院大學で「井上毅没後 120 年記念式典」が開催されたが、『明治 14 年の政変』に関する資料は一切展示されなかった。井上毅の遺言状に『『明治 14 年の政変』に関する情報は一切公開しないように！』にとでも書かれているのだろうか？

又、元國學院図書館司書で、井上毅伝記編集委員で國學院大學客員教授でもあった、木野主計（きの・かずえ）氏は、数年前熊本で、「日本社会の根幹を築いた井上毅」という演題で講演をしたが、『明治 14 年の政変』に関する話題には一切触れていない。

7. 『明治 14 年の政変』に於ける井上毅の信条と政略（言動）

福澤が井上毅の存在や彼の陰謀に気づかず、また井上毅の『明治 14 年の政変』での政略が後世まで「知られざる真相」として世間に知れ渡らなかったのはなぜだろうか？

井上毅が元田永孚に宛てた一通の書簡から、井上の内面的心情を読みとる事が出来る。手紙の一部を、現代文に訳すと次の通りである。

「世間には何か大きな仕事をする、これは俺がやったとばかりに自分の俠名（男気）を売る者が多いが、本当に国を憂い困難な仕事をするなら、冥々之間に（知らず知らずのうちに）誠を尽くすもの（誠意を尽くすもの）である。」

井上毅の信条は「政治の秘訣は人知れぬ間に時勢を制する事にある。」であった。

以上